令和５年度外務大臣表彰　受賞者紹介

外務大臣表彰は、日本との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。令和５年度は、川島真・東京大学教授、張炳煌中華書学会会長・淡江大學教授兼文錙芸術中心主任、財団法人語言訓練測験中心、財団法人台南市台日文化友好交流基金会、東亜経済協会が受賞されました。ご功績に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

今月号では、８月22日に外務省内において行われた令和５年度外務大臣表彰式にて、林芳正外務大臣より表彰状を授与されました川島真教授をご紹介いたします。なお、台湾人受賞者については次号以降でご功績を紹介いたします。

川島真・東京大学教授

川島教授は、アジア政治外交史、中国外交史研究を専門とする歴史学・政治学者。2014年に就任した日本現代中国学会理事長の他、複数の学会にて理事等を歴任。学会やシンクタンクでの研究活動を通して研究者のネットワーク形成を構築し、学術国際交流に寄与。また外務省や内閣府の委員なども精力的に勤め、近代史から安全保障まで中国研究を牽引する一人となっています。川島教授は、長年にわたり、当協会の日本研究支援委員会の中心メンバーとして、台湾における知日派育成、日本研究の促進及び普及に多大なる貢献をされました。

提供：外務省

受賞のことば

このたび日本台湾交流協会の推薦により外務大臣表彰を受けました。同協会のウェブサイトによれば、表彰の主たる理由は、「長年にわたり、当協会の日本研究支援委員会の中心メンバーとして、台湾における知日派育成、日本研究の促進及び普及に多大なる貢献」したとされています。国交のない台湾との交流に対して、外務大臣から表彰を受けるということは意義深いことだと強く感じております。本件に関係された方々に心から感謝申し上げます。

日台関係を見れば、双方の国民感情も日中関係とは比べ物にならないほど良好です。しかし、その良好に見える日台関係には看過できない脆弱性があると考えています。その一部が日本研究支援委員会の問題意識でもあります。第一に、日台間で相互に好感度が高くとも、その相互認識には問題があると思われる点です。例えば、日本では、学校教育で台湾のことはほとんど教えず、台湾では日本に関する知識が偏り、ラーメンや観光旅行先には詳しくても、政治外交、安全保障となると多々誤解が見られます。第二に、台湾において李登輝元総統に代表される「日本語人」が台湾社会の第一線から遠ざかってしまい、将来の日台関係を支える屋台骨となる人々の育成が望まれることです。第三に、台湾で日本語学習者が多くとも、また日本語学科でそうした日本語人材が養成されようとも、その専門は語学・文学が中心で、また政治外交、安全保障、経済などの専門家の養成が必ずしも十分に養成されてはいないということです。日本側にもさまざまな課題がありますが、このような問題意識に基づいて、日本台湾交流協会に日本研究支援委員会が立ち上げられ、台湾側の日本研究への取り組みに対し、主に社会科学の面での研究支援が実施されることになりました。その事業は十数年にわたり実施されていますが、筆者はその支援委員会に計画段階から関わってきました。

この支援事業も、講師派遣や台湾学生の訪日研究活動の受け入れなど様々なプログラムを実施し、台湾の諸大学に設置された日本研究センターや日本研究単位履修コースを支援するなど、成果を上げてきました。しかし、「人づくり」は数十年かけなければ成果が可視化されない難しい分野です。政治大学の日本研究修士課程の設置から始まったこの事業も、目下のところ、台湾の主要大学にポスドクを設置するところまで来ました。今後は、「出口」、すなわち研究者の誕生が望まれるところですが、それは容易ではありません。

今回表彰してはいただきましたが、台湾の日本研究支援事業は道半ばです。引き続き日本台湾交流協会や支援委員会の委員の方々とも協力して、台湾の日本研究を応援することができればと思っております。この度は誠にありがとうございました。